

ネイチャーセンターだより



春国岱・風蓮湖 生きもの図鑑

ハシビロガモ

英名：Shoveler 学名：Anas clypeata



和名を漢字にすると「嘴広鴨」と書きます。くちばし(くちばし)がシャベルのように平たくて大きいことから名前がつけました。ハシビロガモは大きなくちばしで水面をなでるようにくるりくるりと泳ぎまわります。ダンスをしているようですが、実は水面に浮かんだ草のタネなどをくちばしで漉しとって食べているのです。上と下のくちばしの合わせ目にある板歯という櫛のような器官を使ってエサを漉しとります。



ネイチャーセンター日記

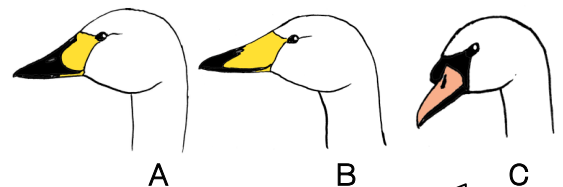
オオハクチョウが風蓮湖に集まってきました。数千羽のハクチョウが湖に浮かぶ風景は何度見ても感動的です。外に出るとコォーコォーとよく通る鳴き声がきこえてきて、冬の訪れを教えてください。

小さくて自立ちませんが、大きなハクチョウの間をスイスイと泳いでいるたくさんのカモたち。色とりどりのカモたちも秋の風蓮湖に彩をそえてくれます。

のんきに浮かんでいるようにも見えますが、エサをとったり、ケンカをしたり、ワシやタカなどの敵を警戒したり・・・これから、湖が凍る12月中旬ごろまで、にぎやかな水鳥の様子を観察できます。

～春国岱クイズ～

風蓮湖はオオハクチョウの渡りの中継地として大切な場所になっていて、たくさんのオオハクチョウが飛来します。さて、オオハクチョウはどんな顔をしているのでしょうか？下の3つの絵から正しいものを選んでください。



ヒント

くちばしの黒いところ
のカモがちがうよ。

答えは来月号

(先月号の答え 4羽)

ネイチャーセンターからのお知らせ

フィールド講座② ～ヒグマについて知ろう～

10月10日の土曜日、(財)知床財団の研究者、小平真佐夫氏をお招きして、「フィールド講座 ヒグマを知ろう!～ヒグマと上手につき合うために」を開催しました。

ヒグマは日本に生息する陸上動物の中で最も大きく、国内では北海道にしか生息していない野生動物です。根室でも毎年、ヒグマの糞や足跡などの目撃情報が寄せられており、今年は牧の内地区でもヒグマの足跡が見つかっています。秋は冬眠に備えるため、ヒグマが餌を求めて活発に動き回る時期です。

講座当日は13名の参加があり、ヒグマの生態や行動について学びました。講義の中では、ヒグマの生態のほかに、ヒグマに出会わないための予防策やヒグマに出会ってしまったときの対処法も教えていただきました。クマスプレーの実物を見せていただき、正しい使い方についてレクチャーを受けました。また、ヒグマの頭骨の標本も登場し、ヒグマの大きさや力強さを実感しました。

最後にヒグマと共存するために私たちができることについて、参加者のみなさんにアイデアを出してもらいました。ヒグマを誘引するゴミを捨てない、不幸な事故が起こらないようヒグマに出会わない努力をするなど、ヒグマと上手につき合っていくための方法について改めて考えました。



クマスプレーとクマ鈴
もしものときに備えて、クマ避けグッズを携帯しましょう。

ボランティアの活動

■ ネイチャーセンター祭りを開催しました ■

10月18日(日)施設ボランティアグループ・スungkによるネイチャーセンター祭りが開催されました。工作やネイチャーゲームなどをしながら、1日中自然を楽しむイベントです。当日は、嵐のような大雨で、野外のネイチャーゲームはできませんでしたが、色付きおが粉を使った工作やタンチョウやトキの紙芝居、タンチョウの色あて、タンチョウの一年ゲームなどをしました。自然や生き物について楽しみながら詳しくなれる1日になりました。



フィールドボランティア募集中!!

風蓮湖・春国岱で活動しませんか?

春国岱では、野鳥や自然の調査や観察会などを行うボランティアスタッフを募集しています。いつからでも、経験がなくても始められますので、気軽にお問合せください。

対象：高校生以上

保険料：300円(年間)が必要となります。



【お問合せ】電話 0153-25-3047

自然観察路周辺の自然情報 * 11月 *

オジロシ



少数が北海道に残り子育てをします。魚を求めて干潮時の干潟に降りている姿が見られます。

エゾリス



クルミの実がなる季節になると、エゾリスの姿を見る機会が増えます。地上に落ちているクルミを拾って食べる様子や、冬に備え、地面に穴を掘って埋める様子が観察できます。



海ガモの仲間



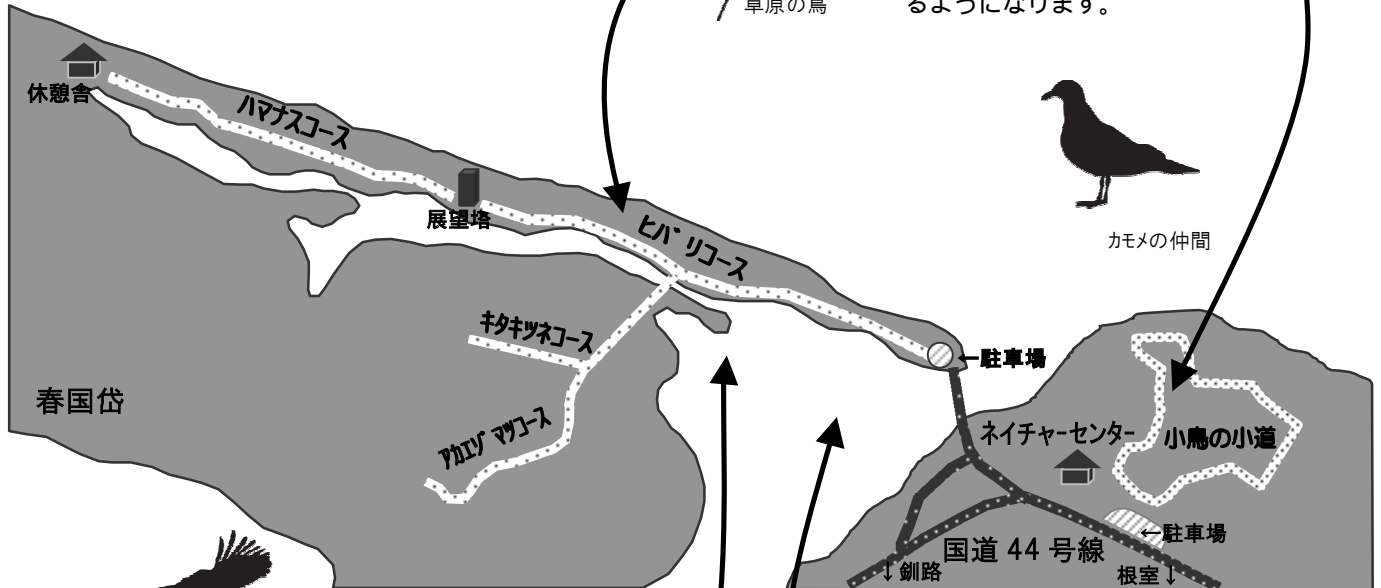
ヒメウ

クロガモやホオジロガモなど海がもの仲間が北からやってきます。沖合いの波間に浮き沈みする群れが見られます。



草原の鳥

冬を根室で過ごす小鳥達がやってきます。ハギマシコやユキホオジロなどがみられるようになります。



カモメの仲間

オオワシ



オオワシの飛来がはじまります。12月が近づくにつれ数が増えていきます。風蓮湖の周りの木に止まっている姿や上空をゆったりと飛ぶ姿が見られるようになります。



タンチョウ

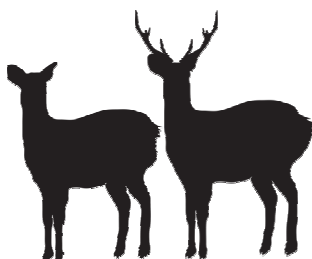
オオハクチョウ



カモの仲間



湖や沼にカモの仲間が渡ってきます。冬の使者オオハクチョウもシベリアでの子育てを終え、日本で冬を過ごすためにやってきます。風蓮湖が凍る 12 月頃まで見る事ができます。



エゾシカ

エゾシカたちが、小鳥の小道や春国岱の草原でのんびりと草を食べたりする姿が見られます。だんだんと数が増えていきます。

イベント・展示情報

★えさ台のマナーを考える

～スズメと自然への思いやり～

エサ台のマナーなどを、スズメを通して考えます。人と野生生物の関わりを考える会の高橋氏からエサ台のマナーや大量死の原因、調査についてお話をうかがいながら、身近な野鳥との付き合い方の1つであるエサ台について考えます。

日時：11月8日(日) 13:30～15:00

対象：一般

定員：40名

会場：根室市春国岱原生野鳥公園
ネイチャーセンター

参加費：保険代100円

申込み：当日直接会場にお越しください。
会場にて受付をします

★森の動物の巣箱をつくろう

シジュウカラやハシブトガラ、エゾモモンガ、コムリなど木の洞などを使う動物たちのすみかをふやすために、森にかける巣箱を作ります。

日時：12月23日(水・祝)

13:30～16:00

対象：小学生以上

(小学生以下は保護者同伴)

定員：8組(先着順)

集合場所：根室市春国岱原生野鳥公園
ネイチャーセンター

持ち物：暖かく、動きやすい服装、軍手

参加費：保険代100円

申込み：12月15日までに電話にて受付

【お申込み・お問合せ】 電話 0153-25-3047 (春国岱ネイチャーセンター)

団体の方へ～解説プログラムのご案内～

- 事前にお申し込みが必要です。
- 野外での解説は、学校など自然体験を目的とした団体などに限らせていただきます。
→詳細など、お問合せはネイチャーセンターにご連絡ください。(電話 0153-25-3047)



- ① 野外解説・自然学習 (～2時間 / ～20名)
- ② 春国岱の自然 (映像) (15分～25分 / ～45名)
- ③ 自然クイズラリー (約1時間 / ～50名)
- ④ タンチョウ、カモ類に関する学習ゲーム (30分～2時間 / ～20名)
- ⑤ 施設概要説明 (30分～2時間 / ～45名)

～メール配信のお願い～

ネイチャーセンターだよりをメール(PDF形式)で配信しています。経費削減のためご変更いただける方は、下記メールアドレスまで、ご自身のメールアドレスをお知らせ下さい。ご協力をお願いいたします。
連絡先：nemu_nc@marimo.or.jp
※ネイチャーセンターだよりは、ホームページ上でもご覧いただけます。

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

- 住所■ 〒086-0074 北海道根室市東梅103番地
- 電話■ 0153-25-3047 ■FAX■ 0153-25-8570
- HP■ http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html
- メール■ nemu_nc@marimo.or.jp
- 11月の開館時間■ 9:00～16:30
- 11月の休館日■ 4, 5, 11, 18, 24, 25

